

ベジタリアン・ヴィーガンに対する印象

—日本における印象と規定要因の検討—

森 海陽

健康的な植物ベースの食事は、動物性食品が多い食事パターンと比べて、環境への負担が少なく持続可能であり、食事に関連する慢性疾患のリスクが低いことが示されていることから、人間と地球両方の健康＝「プラネタリーヘルス」に寄与する食事として注目されている。ベジタリアン・ヴィーガンは共に肉類や魚介類を食べないが、ベジタリアンは乳類や卵類を食べる場合があるのに対し、ヴィーガンはそれらも食べることがない。西洋諸国では、ベジタリアン・ヴィーガンに対する印象や、印象に関連する要因を調べた研究が多数存在するが、日本における同様の研究は、著者の知る限り存在しない。

本研究では、日本におけるベジタリアン・ヴィーガンに対する印象の規定要因を調べることで、および印象を変化させる可能性を検討することを目的とした。規定要因として、ベジタリアン・ヴィーガンの主な動機である健康・環境・動物の権利に対する意識および共感性に注目した。回答者自身および回答者が予想するベジタリアン・ヴィーガンの各意識、回答者自身の共感性を測定した。

その結果、回答者自身の環境意識の高さとベジタリアン・ヴィーガンに対する印象の良さ、自己指向的反応の強さと印象の悪さには相関が見られた。重回帰分析の結果、環境意識の高さ・他者指向的反応の強さがより良い印象を、自己指向的反応の強さがより悪い印象を予測した。植物ベースの食事が環境に与える効果を強く認識する人ほど、より良い印象を持つ傾向があった。自己指向的反応が強い人にとって、ベジタリアン・ヴィーガンの利他的・道徳的な考え方や価値観は対立的であり、否定的印象に繋がった。一方、他者指向的反応が強い人は、ベジタリアン・ヴィーガンの考え方や価値観に共感・理解できる可能性が高く、より良い印象に繋がった。健康・環境・動物の権利意識に関して、回答者がこれらに対し高い意識を持つことと、ベジタリアン・ヴィーガンが高い意識を持っていると認識することの間に関係があった。また、ベジタリアン・ヴィーガンの意識について、健康意識は自身と同等であると認識する一方、環境・動物の権利意識は自身よりも高いと認識する傾向が見られた。

次に、健康・環境保護・動物愛護の観点から、ベジタリアン・ヴィーガンを実践するメリットが書かれたメッセージを読むことで印象が向上するのかを調べた。その結果、回答者の印象は変化しなかった。メッセージの効果に関する要因を調べたところ、健康メッセージと動物愛護メッセージでは回答者の被影響性の強さが、環境保護メッセージでは自己指向的反応の強さが、また動物愛護メッセージでは想像性の強さが、印象の向上と関係していた。自由記述から、「ベジタリアン・ヴィーガンの柔軟で多様な生き方を尊重する姿勢を知ることが、印象を向上させるきっかけになる」「特に健康におけるメリットを知ることがきっかけになる」という回答が得られた。これらを踏まえると、主に健康面のメリットを伝えるほか、回答者がベジタリアン・ヴィーガンの考え方や価値観、多様な意見を尊重する姿勢を知ることが、印象が向上する可能性がある。また、メリットの提示方法や介入の内容を改善していくことで、印象を向上させる方法を検証していくことができる。日本におけるベジタリアン・ヴィーガンに対する印象とその規定要因について、今後さらなる研究が求められる。(応用認知心理学)